

Express5800/R120h-1M(3rd-Gen)

本ページの内容は、限られた評価環境における検証結果に基づいた動作確認情報です。

なお、ハードウェアの導入・購入に関するご相談は以下にお問い合わせ下さい。

[ファーストコンタクトセンター](#)

記号の意味
◎…当該ディストリビューションで動作可能
○…当該ディストリビューションに最新ドライバ等を適用し動作可能
×…動作不可
－…未サポート
空欄…未確認

製品情報

型番	装置名称
N8100-2834Y	Express5800/R120h-1M(3rd-Gen) [8x2.5型ドライブモデル]
N8100-2835Y	Express5800/R120h-1M(3rd-Gen) [4x3.5型ドライブモデル]

ハードウェア構成

構成	ドライブ	構成概要
1	RAID	N8103-189 RAIDコントローラ(RAID 0/1, 専用スロット型, 標準ヒートシンクタイプ) 増設用 HDD
2	RAID	N8103-190 RAIDコントローラ(2GB, RAID 0/1/5/6, 専用スロット型, 標準ヒートシンクタイプ) 増設用 HDD
3	RAID	N8103-191 RAIDコントローラ(4GB, RAID 0/1/5/6, 専用スロット型, 標準ヒートシンクタイプ) 増設用 HDD
4	RAID	N8103-192 RAIDコントローラ(RAID 0/1, 専用スロット型, 小型ヒートシンクタイプ) 増設用 HDD
5	RAID	N8103-193 RAIDコントローラ(2GB, RAID 0/1/5/6, 専用スロット型, 小型ヒートシンクタイプ) 増設用 HDD
6	RAID	N8103-194 RAIDコントローラ(4GB, RAID 0/1/5/6, 専用スロット型, 小型ヒートシンクタイプ) 増設用 HDD
7	RAID	N8103-195 RAIDコントローラ(RAID 0/1, PCIカード型) 増設用 HDD
8	RAID	N8103-201 RAIDコントローラ(2GB, RAID 0/1/5/6, PCIカード型) 増設用 HDD
9	SATA HDD	増設用 HDD

※本装置のLinuxOSではオンボードRAID機能は使用できません。

動作確認

評価項目	結果		コメント
	構成1,2,3,4,5,6,7,8	構成9	
OSのインストール	◎	◎	ディストリビューションのCD/DVDメディアから起動してインストール。(注1～6)
作成パーティション数	14	14	ドライブ全領域を使用。
ハードドライブ	◎	◎	ファイルのコピー/比較動作を確認。
RAIDドライブの縮退動作	◎	－	I/Oアクセス、再起動を実施。
RAIDドライブの再構築	◎	－	I/Oアクセス、再起動を実施。
負荷ランニング	12h	12h	各ドライブ、ネットワークへの連続負荷時間。
再起動	10	10	繰り返し回数。

(注1)インストール後のアップデート手順
以下の手順でインストール後にアップデートを実施します。

・ Starter Packの適用
以下の手順でStarter Packを適用する必要があります。

Starter Packをマウントし、Starter Pack 内の packages 配下で以下のコマンドを実施します。
smartupdate deployコマンド実行中、次のエラーメッセージが出力される場合がありますが、特に影響ないため無視してください。
dracut[xxxxx]: Failed to install module qedr
dracut[xxxxx]: Failed to install module iavf

smartupdate add および smartupdate inventory の "--baselines"オプションの後は絶対パス(/media/cdrom/packages)を指定してください。

```
# ./clean-cache.sh
--> "Are you sure you want to delete SUM cache files?" の問い合わせには "y" を入力します。
--> "Press Enter to continue" の問い合わせにはEnterキーを押します。
# ./smartupdate add --baselines /media/cdrom/packages
# ./smartupdate add --nodes localhost
# ./smartupdate setattributes --nodes localhost rewrite=false downgrade=false firmware=false software=true
# ./smartupdate inventory --nodes localhost --baselines /media/cdrom/packages
# ./smartupdate deploy
# ./smartupdate shutdownengine
実施後、システムを再起動します。
```

※使用するStarter Packのバージョンは動作確認ディストリビューション一覧を参照願います。

(注2)インストール後のアップデート手順
以下の手順でインストール後にアップデートを実施します。

Starter Packの適用
以下の手順でStarter Packを適用する必要があります。
Starter Packをマウントし、Starter Pack 内の packages 配下で以下のコマンドを実施します。
smartupdate deployコマンド実行中、次のエラーメッセージが出力される場合がありますが、特に影響ないため無視してください。
dracut[xxxxx]: Failed to install module qedr
dracut[xxxxx]: Failed to install module iavf

```
# ./clean-cache.sh
--> "Are you sure you want to delete SUM cache files?" の問い合わせには "y" を入力します。
--> "Press Enter to continue" の問い合わせにはEnterキーを押します。
# ./smartupdate --s --softwareonly --ignore_tpm --ignore_warnings
実施後、システムを再起動します。
```

※使用するStarter Packのバージョンは動作確認ディストリビューション一覧を参照願います。

(注3)インストール後のアップデート手順
以下の手順でインストール後にアップデートを実施します。

1. ドライバのアップデート
Starter Pack(S8.10-007.02)をマウントし、Starter Pack 内の packages 配下にある以下のパッケージをインストールし、システムを再起動します。
kmod-smartpqi-1.2.10-027.rhel8u1.x86_64.rpm
kmod-hp-igb-6.2.2-1.rhel8u1.x86_64.rpm
kmod-hp-ixgbe-5.6.4-2.rhel8u1.x86_64.rpm
例) # rpm -ivh kmod-smartpqi-1.2.10-027.rhel8u1.x86_64.rpm

2. Starter Pack(S8.10-007.02) の適用
以下の手順でStarter Packを適用する必要があります。
Starter Packをマウントし、Starter Pack 内の packages 配下で以下のコマンドを実施します。
smartupdate deployコマンド実行中、次のエラーメッセージが出力される場合がありますが、特に影響ないため無視してください。
dracut[xxxxx]: Failed to install module qedr
dracut[xxxxx]: Failed to install module iavf

N8104-177/183/187使用時、
smartupdate inventoryコマンド実行中、次のエラーメッセージが出力される場合がありますが、特に影響ないため無視してください。
kernel: [qed_nvflash:2127(ethX)]Failed to find 'xctestdummy.bin'
kernel: [qed_dbg_dump:7790(ethX)]Collecting a debug feature ["xxxxxxx"]
kernel: [qed_dbg_nvimage:7911(ethX)]Collecting a debug feature ["xxxxxxx"]

smartupdate add および smartupdate inventory の "--baselines"オプションの後は絶対パス(/media/cdrom/packages)を指定してください。

```
# ./clean-cache.sh
--> "Are you sure you want to delete SUM cache files?" の問い合わせには "y" を入力します。
--> "Press Enter to continue" の問い合わせにはEnterキーを押します。
# ./smartupdate add --baselines /media/cdrom/packages
# ./smartupdate add --nodes localhost
# ./smartupdate setattributes --nodes localhost rewrite=false downgrade=false firmware=false software=true
# ./smartupdate inventory --nodes localhost --baselines /media/cdrom/packages
# ./smartupdate deploy
# ./smartupdate shutdownengine
実施後、システムを再起動します。
```

(注4)インストール後のアップデート手順
以下の手順でインストール後にアップデートを実施します。

1. ドライバのアップデート
Starter Pack(S8.10-008.01)をマウントし、Starter Pack 内の packages 配下にある以下のパッケージをインストールし、システムを再起動します。
kmod-smartpqi-1.2.14-016.rhel8u2.x86_64.rpm
kmod-elx-lpfc-12.6.275.14-1.rhel8u2.x86_64.rpm
例) # rpm -ivh kmod-smartpqi-1.2.14-016.rhel8u2.x86_64.rpm

2. Starter Pack(S8.10-008.01) の適用
以下の手順でStarter Packを適用する必要があります。
Starter Packをマウントし、Starter Pack 内の packages 配下で以下のコマンドを実施します。
smartupdate deployコマンド実行中、次のエラーメッセージが出力される場合がありますが、特に影響ないため無視してください。
dracut[xxxxx]: Failed to install module qedr
dracut[xxxxx]: Failed to install module iavf

N8104-177/183/187使用時、
smartupdate inventoryコマンド実行中、次のエラーメッセージが出力される場合がありますが、特に影響ないため無視してください。
kernel: [qed_nvflash:2127(ethX)]Failed to find 'xctestdummy.bin'
kernel: [qed_dbg_dump:7790(ethX)]Collecting a debug feature ["xxxxxxx"]
kernel: [qed_dbg_nvimage:7911(ethX)]Collecting a debug feature ["xxxxxxx"]

smartupdate add および smartupdate inventory の "--baselines"オプションの後は絶対パス(/media/cdrom/packages)を指定してください。

```
# ./clean-cache.sh
--> "Are you sure you want to delete SUM cache files?" の問い合わせには "y" を入力します。
--> "Press Enter to continue" の問い合わせにはEnterキーを押します。
# ./smartupdate add --baselines /media/cdrom/packages
# ./smartupdate add --nodes localhost
# ./smartupdate setattributes --nodes localhost rewrite=false downgrade=false firmware=false software=true
# ./smartupdate inventory --nodes localhost --baselines /media/cdrom/packages
# ./smartupdate deploy
# ./smartupdate shutdownengine
実施後、システムを再起動します。
```

(注5)インストール後のアップデート手順
以下の手順でインストール後にアップデートを実施します。

1. ドライバのアップデート

サーバーがR120h-1E, R120h-2E, T120h, R110j-1Mの場合、もしくはサーバーにN8104-176/186が搭載されている場合は、i40eドライバー バージョン2.14.13を個別にインストールします。 i40eドライバー バージョン2.14.13の入手および適用方法については「Linux ドライバ情報一覧」を参照してください。

次にStarter Pack(S8.10-009.01)をマウントし、Starter Pack 内の packages 配下にある以下のパッケージをインストールし、システムを再起動します。

```
kmod-smartpqi-2.1.8-040.rhel8u3.x86_64.rpm
kmod-elx-lpfc-12.8.352.11-1.rhel8u3.x86_64.rpm
kmod-hp-igb-6.2.5-1.rhel8u3.x86_64.rpm
kmod-hp-ixgbe-5.9.4-1.rhel8u3.x86_64.rpm
kmod-tg3-3.139b-1.rhel8u3.x86_64.rpm
kmod-netxtreme2-7.14.76-1.rhel8u3.x86_64.rpm
kmod-qlgc-fastlinq-8.55.5.0-2.rhel8u3.x86_64.rpm
例) # rpm -ivh kmod-smartpqi-2.1.8-040.rhel8u3.x86_64.rpm
```

2. Starter Pack(S8.10-009.01) の適用

以下の手順でStarter Packを適用する必要があります。
Starter Packをマウントし、Starter Pack 内の packages 配下で以下のコマンドを実施します。
smartupdate deployコマンド実行中、次のエラーメッセージが出力される場合がありますが、特に影響ないため無視してください。
dracut[xxxxx]: Failed to install module qedr
dracut[xxxxx]: Failed to install module iavf

smartupdate add および smartupdate inventory の "--baselines"オプションの後は絶対パス(/media/cdrom/packages)を指定してください。

```
# ./clean-cache.sh
--> "Are you sure you want to delete SUM cache files?" の問い合わせには "y" を入力します。
--> "Press Enter to continue" の問い合わせにはEnterキーを押します。
# ./smartupdate add --baselines /media/cdrom/packages
# ./smartupdate add --nodes localhost
# ./smartupdate setattributes --nodes localhost rewrite=false downgrade=false firmware=false software=true
# ./smartupdate inventory --nodes localhost --baselines /media/cdrom/packages
# ./smartupdate deploy
# ./smartupdate shutdownengine
実施後、システムを再起動します。
```

[「Linux ドライバ情報一覧」](#)

(注6)インストール後のアップデート手順
以下の手順でインストール後にアップデートを実施します。

1. ドライバのアップデート

Starter Pack(S8.10-010.01)をマウントし、Starter Pack 内の packages 配下にある以下のパッケージをインストールし、システムを再起動します。
kmod-smartpqi-2.1.12-055.rhel8u4.x86_64.rpm
kmod-elx-lpfc-12.8.528.7-1.rhel8u4.x86_64.rpm
kmod-hp-igb-6.7.2-2.rhel8u4.x86_64.rpm
kmod-netxtreme2-7.14.80-6.rhel8u4.x86_64.rpm
kmod-qlgc-fastlinq-8.55.14.0-2.rhel8u4.x86_64.rpm
kmod-ice-1.6.4-1.rhel8u4.x86_64.rpm
例) # rpm -ivh kmod-smartpqi-2.1.12-055.rhel8u4.x86_64.rpm

2. Starter Pack(S8.10-010.01) の適用

以下の手順でStarter Packを適用する必要があります。
Starter Packをマウントし、Starter Pack 内の packages 配下で以下のコマンドを実施します。
途中で"Status:該当するコンポーネントが見つかりませんでした。"と出る場合がありますが、無視してください。
./clean-cache.sh
--> "Are you sure you want to delete SUM cache files?" の問い合わせには "y" を入力します。
--> "Press Enter to continue" の問い合わせにはEnterキーを押します。
./smartupdate --s --softwareonly --ignore_tpm --ignore_warnings
実施後、システムを再起動します。

■共通動作確認

評価項目	結果	コメント
X Window System の動作	◎	解像度 1280x1024 の表示、マウス・キーボードの機能。
標準LANポート	◎	sshでログインできる、ftpで100MBのファイルが転送できる。
CPUの認識	◎	cat /proc/cpuinfo にて、動作周波数、論理CPU数を確認。
メモリの認識	◎	cat /proc/meminfo にて総容量を確認。
光ディスクドライブ	◎	ファイルのコピー/比較動作を確認。
Flash FDD	◎	
シリアル・ポート	◎	設定を行うことで、コンソール出力が表示され、ログインできる。
マネージメントコントローラチップ リモートコンソール/リモートメディア	◎	・ リモートコンソールでの表示/操作 ・ リモートメディア(DVD/FDD)の認識・使用 ・ リモートコンソール/リモートメディアを使用したインストール ※ご使用にはN8115-33「リモートマネージメント拡張ライセンス」の購入が必要です。

■動作確認ディストリビューション

ディストリビューション	使用Starter Pack	更新日	コメント欄
RedHat Enterprise Linux 8.1(KERNEL 4.18.0-147.5.1.el8_1)	S8.10-007.02	2020年7月27日	(注1)参照
RedHat Enterprise Linux 8.2(KERNEL 4.18.0-193.el8)	S8.10-008.01	2020年12月14日	(注1)参照
RedHat Enterprise Linux 8.3(KERNEL 4.18.0-240.el8)	S8.10-009.01	2021年7月14日	(注1)参照
RedHat Enterprise Linux 8.4(KERNEL 4.18.0-305.19.1.el8_4)	S8.10-010.01	2021年12月15日	(注2)参照
RedHat Enterprise Linux 8.5(KERNEL 4.18.0-348.el8)	S8.10-010.03	2022年6月1日	(注2)参照
RedHat Enterprise Linux 8.6(KERNEL 4.18.0-372.16.1.el8_6)	S8.10-010.05	2022年12月12日	(注2)参照
RedHat Enterprise Linux 8.7(KERNEL 4.18.0-425.10.1.el8_7)	S8.10-010.08	2023年11月27日	(注2)参照
RedHat Enterprise Linux 8.8(KERNEL 4.18.0-477.21.1.el8_8)	S8.10-010.09	2024年6月7日	(注2)参照
RedHat Enterprise Linux 8.9(KERNEL 4.18.0-513.5.1.el8_9)	S8.10-010.10	2024年11月22日	(注2)参照
RedHat Enterprise Linux 8.10(KERNEL 4.18.0-553.el8_10)	S8.10-010.11	2025年7月18日	(注2)参照
CentOS 8.1(KERNEL 4.18.0-147.5.1.el8_1)	S8.10-007.02	2020年7月27日	(注3)参照
CentOS 8.2(KERNEL 4.18.0-193.el8)	S8.10-008.01	2020年12月14日	(注4)参照
CentOS 8.3(KERNEL 4.18.0-240.el8)	S8.10-009.01	2021年7月14日	(注5)参照
CentOS 8.4(KERNEL 4.18.0-305.19.1.el8_4)	S8.10-010.01	2021年12月15日	(注6)参照
Ubuntu 20.04.2	—	—	お問い合わせください

※CentOS Projectは、CentOS8が2021年でサポートを終了するというアナウンスをしています。